

26. 岐阜県白川村

対象地域	岐阜県 白川村 荻町合掌造り集落エリア			
申請主体	岐阜県白川村			
計画名	続白川郷観光最適化デザイン計画			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	2,151	1,724	2,083
	- 国内	1,132	1,066	969
	- 訪日外国人旅行者	1,019	658	1,114
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産「白川郷・五箇山合掌造り集落」の荻町合掌造り集落は、独特の建築美と四季折々の風景が魅力。国内外から多くの観光客が訪れる中部地方屈指の人気観光地となっている。 白川村は山間部に位置し、アクセスは車に限られる。公共交通機関はバスのみで、人気観光地の高山市、金沢市からバスが運行している。 			
協議体制	協議の場			
	荻町交通対策会議			
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の代表を委員とし、定期開催される荻町交通対策会議の結果は、令和6年度から地域内住民に対して議事録が回覧される仕組みとしている。 			
協議体制	参加者			
	行政機関	住民関係者		
	<ul style="list-style-type: none"> 白川村役場 ・ 鳩谷駐在所 教育委員会事務局 	<ul style="list-style-type: none"> 村議会議員代表 荻町発展会会長 荻町女性会会長 荻町区長 荻町副区長 守る会会長 		
	事業者			
	<ul style="list-style-type: none"> (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団 (一社)白川郷観光協会 			

エリアマップ



集落を散策する訪日外国人旅行者四季折々の景色が楽しめる



訪日外国人旅行者に人気の冬季限定白川郷ライトアップ



五穀豊穰・家内安全・里の平和を山の神様に祈願する「どぶろく祭」での振る舞い





集落総出で行う秋の一斉放水訓練。火に弱い合掌家屋を守る意識が村人全員に根付く



「結」と呼ばれる村人同士の相互扶助の精神に基づき、村人たちが協力して屋根を葺き替える

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 道路の渋滞	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞は毎日発生するわけではなく、ゴールデンウィーク、お盆、シルバーウィーク、秋の紅葉シーズン、年末年始などの特定の時期に限定される。 生活道路でもある国道156号内で2キロメートル以上の渋滞が続き、う回路もないため、村内の交通が麻痺する深刻な事態に陥る。 	観光客・住民
2. マナー問題	<ul style="list-style-type: none"> 火気厳禁区域での喫煙、ゴミのポイ捨ては、火災による集落の焼失や環境汚染のリスクを高める。 住宅や田畑への侵入、違反駐車は、住民のプライバシーや生活を侵害してしまう。 	住民
3. 集落内の混雑	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産集落への観光客の集中により、集落内の至る所で行列が発生する。 	観光客・住民

1 道路の渋滞



駐車場待ちの車両による渋滞

2 マナー問題



便座が壊され、ごみが溢れる
トイレ

3 集落内の混雑



バスターミナルの混雑

主な背景・要因

1. **訪日外国人旅行者比率の上昇**
 - ・ 中部運輸局様の「昇龍道」プロジェクトの取組み（平成24年～）を契機に訪日外国人旅行者増加。また、岐阜県高山市もしくは石川県金沢市を宿泊地として、日帰りで来訪される訪日外国人旅行者が増加しているが両市発着のバスの増便も要因となっている。
 - ・ 直近の令和6年は国内外旅行者の比率において訪日外国人旅行者数が国内旅行者数をはじめて上回ったが、訪日外国人旅行者の多さから来訪を敬遠する国内旅行者も一定数いると考えられる。
2. **個人旅行者の増加**
 - ・ コロナを契機に国内外の観光客ともに団体旅行から個人旅行へのシフトが起こった。
 - ・ 交通アクセスが限られる当地域において、レンタカーで来訪される観光客が国内外問わず増加した。

観光客数統計（令和6年）

訪日外国人旅行者数が国内旅行者数を上回っている。

観光統計サマリ



4. 対策の概要

目指す姿	地域住民の生活と文化を守りつつ、多様な観光客と喜びを分かち合うことができる持続可能な共生型の観光地
KGI	(指標) 観光客の受入に対して満足している村民の割合 目標値：40.0% (令和8年度) 実績値：36.0% (令和5年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 荻町世界遺産集落は今もなお住民が実際に生活をしているエリアである。観光の商業化一辺倒でなく、住民生活との両立を図っており、これまでも様々な切り口から持続可能な観光地づくりを行ってきた。 ・ 地域特有の事情（地理的制約、エリアの集中、受入容量を超える観光客の来訪、世界文化遺産による制約など）を踏まえて取組みを実施した。 	

■ 補助事業の実施概要

需要の適切な管理
<p>① せせらぎ公園駐車場料金設定システム改修 【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の分散を図るために村営駐車場料金の変動制を導入したいがシステム上対応できない。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在検討している変動料金に対応できるように料金精算機のプログラムを特別仕様に改修する。
需要の適切な管理
<p>② 駐車場予約システムの開発 【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型バスの駐車台数が観光客の混雑に大きく影響しているが、制御の手段がない。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型バス向け予約システムを開発し、予約制を導入する。（令和7年度はシステムの導入のみ）を実施する。
需要の分散・平準化
<p>③ 白川郷混雑等情報サイト機能改善事業 【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度情報サイトを開設したが、混雑緩和やマナー向上を達成するための情報が不足。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 混雑等情報サイトの告知機能強化、混雑予測カレンダーに駐車場料金を表示し、変動料金制導入へ対応、特集記事の拡充を実施する。



マナー違反行為の防止・抑制啓発
<p>④ 海外OTA・訪日外国人旅行者を通じたマナー等情報発信業務 【背景・課題】</p> <p>訪日外国人旅行者のマナー向上のためにレスポンスブル・ツーリズムを推進しているが、十分に浸透していない。</p> <p>【事業内容】</p> <p>レスポンスブル・ツーリズムをテーマにした多言語記事を作成し、訪日外国人への情報発信を実施する。</p>
調査・分析
<p>⑤ 広報業務および観光バスを対象とした駐車場事前予約制の導入検討 【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行会社目線でのシステム開発をするためのリソースが不足している。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型バス向け予約システムのオペレーション・フローの検討やシステムデザインのディレクションを実施、円滑な導入に向けて旅行会社等への意見徴収と周知、プレスリリースを実施する。
調査・分析
<p>⑥ 事業間調整・アンケート調査業務 【背景・課題】</p> <p>観光客と住民の双方の調査は重要であるが、調査実施に当たってのリソースが不足している。</p> <p>【事業内容】</p> <p>観光客と住民を対象としたアンケート調査を実施し、事業の効果を客観的に評価する。</p>

KGI:観光客の受入に対して満足している村民の割合

測定手法：村民の観光満足度調査

- ・現状値：36%（令和5年度）
- ・目標値：40%（令和8年度）

KPI：特設サイトの閲覧者総数

年度内 年間70万件
中期 ※再考中

火気厳禁区域での喫煙、ごみのポイ捨て、住居侵入等のマナー違反が発生
世界遺産集落内への観光客への集中により、集落内のいたるところで行列が発生
(展望台行きシャトルバス、バス待合所含む)

KPI：訪日観光情報サイトの閲覧者総数

年度内 年間50,719件
中期 年間90,000件

海外OTA・訪日メディアを通じたマナー等情報発信業務

白川郷混雑等情報サイト機能改善事業

情報発信強化
白川村独自のマナー定着

KPI：2種類のアンケートのサンプル総数

年度内 年間630件
中期 年間650件

事業間調整・アンケート調査業務

KPI：1日700台以上の利用日

年度内 年間30日
中期 年間28日

せせらぎ公園駐車場料金設定システム改修

KPI：大型バス1日100台以上の利用日

令和8年度※ 年間25日
※システム稼働は令和8年度を予定
中期 年間25日

駐車場予約管理システムの開発

KPI：大型バス1日100台以上の利用日

年度内 年間25日
中期 年間25日

広報業務および観光バスを対象とした駐車場事前予約制の導入検討

生活道路でもある国道156号内で、2キロメートル以上の渋滞が続き、う回路もないため、村内の交通が麻痺する深刻な事態に陥る。

大型バス予約制による台数管理



受入環境の整備・増強

補助事業①	せせらぎ公園駐車場料金設定システム改修		
事業目的	利用料金の変動に対応するため、料金精算機のプログラムを改修する		
実施主体	岐阜県白川村	実施期間	令和7年8月～令和7年11月

【背景・課題】

- 白川村では、昨今の観光客数の増加や様々な物価高騰に伴い、駐車場の維持管理経費が増大している。また、オーバーツーリズム対策も重要な課題となっており、これらの状況を踏まえ、令和7年10月1日より、村営駐車場の利用料金を値上げ改定することになった。

【事業内容】

- 観光受入経費の増大を踏まえ、駐車場料金の改定を行ったことにより、料金精算機の設定変更が必要となったため、料金精算機のプログラムを改修する。
- 変動料金制の導入にも対応できるような改修内容とする。

【推進ポイント】

- 今後の料金改定や混雑時等における割増料金の設定のため、複数の料金を登録し、時期に応じて徴収料金を円滑に変更できるようにする。



料金精算機（遠景）



料金精算機（近景）

補助事業①

せせらぎ公園駐車場料金設定システム改修

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 1日700台以上の利用日

令和7年度に掲げた目標値

- 年間30日

事業の成果/目標の検証結果

年間3日 (令和7年4月1日～令和7年12月15日)
 ※令和7年6月2日～9月30日駐車場の改修工事を実施したため受入ゼロ

成果の詳細

- 利用料金の変動に対応するためのシステムを構築できた。
- 予定通り令和7年10月1日より、村営駐車場の利用料金を値上げ改定。滞りなく実施できた。
- 駐車場の指定管理者と連絡を密に取り、システムを構築した。
- 10月1日の利用料金の見直しでは、半年以上前から役場ホームページ等で周知を実施し、見直し後の大きなトラブルは発生していない。このノウハウを特別料金の導入時にも活用していきたい。



令和7年度事業を踏まえた継続課題

駐車場料金見直しの影響判断

- 令和7年10月1日からの駐車場利用料金の改定を踏まえ、繁忙期を含む3段階の料金設定が可能なシステム改修を完了した。
- 直近の料金改定が利用者数に与える影響が未検証であるため、繁忙期料金の導入タイミングおよび妥当性の判断基準が不明確となっている。

令和8年度以降の方針

繁忙期の料金設定

- 一定期間の利用データ（訪者数・客層等）を蓄積・分析し、その結果に基づき繁忙期料金の導入開始時期を判断する。

需要の分散・平準化

補助事業③	白川郷混雑等情報サイト機能改善事業		
事業目的	サイトの情報発信強化により、渋滞緩和と現地情報を広く伝える		
実施主体	岐阜県白川村	実施期間	令和7年8月～令和8年2月

【背景・課題】

- 観光客が白川郷合掌造り集落をテーマパークと誤解し、集落内は何処に入っても良いとの誤解が生じている。具体的には火気厳禁区域での喫煙、田畑・住宅敷地・住宅内への侵入、個人宅の駐車場への駐車、ゴミのポイ捨てなどにより、観光客のマナー面の行動をめぐる住民とのトラブルが頻発している。
- 住民の生活とプライバシーを守るため夜の観光を受け入れていない（駐車場の受入を8時から17時までとしている）が、それを知らずに観光客が来村したことによるトラブルが起きている。
- 上記と交通渋滞に対応するために、令和6年度情報サイトを開設したが混雑緩和やマナー向上を達成するための情報が不足している。

【事業内容】

- 混雑等情報サイトの充実を図るために、①告知機能強化、②混雑予測カレンダーへの駐車場料金表示、③新たに2つのマンガ（シラカワ・ゴーイングの活用、冬タイヤ活用）を表示、④特集記事の拡充、を実施する。
- 旅行前の情報源として、特集記事を増やし、観光客の興味を引く。
- 多言語対応や多様な情報発信手段を活用し、幅広い層に情報を届ける。
- 混雑予測カレンダーや駐車場料金表示機能は、観光客が直感的に利用できる設計にする。

【推進ポイント】

- 令和6年度実施した当サイトに関するアンケート調査において、サイト閲覧者の行動変容が期待できる結果となり、まずは村の取組みを知ってもらうことが重要だと再認識した。そこで旅行前の情報提供をさらに充実させ、当サイトの閲覧数を増やし、観光客の行動変容を促すことで、住民の観光客受入満足度向上につなげる。
- ライブカメラによる混雑状況や混雑予想などの情報をリアルタイムに提供することで、観光客の利便性を向上させ、混雑緩和に貢献する。

補助事業③

白川郷混雑等情報サイト機能改善事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 特設サイトの閲覧者総数

令和7年度に掲げた目標値

700,000件

事業の成果/目標の検証結果

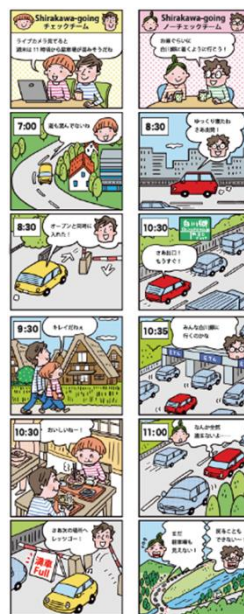
1,259,077件 (令和8年2月19日時点で日本語1,050,292件、英語150,491件、簡体字9,900件、繁体字41,949件、フランス語6,445件)

成果の詳細

- 混雑等情報サイトの告知機能を強化した。
- 旅行前の情報源として、特集記事を制作した。
- 混雑回避を促すマンガを制作した。
- 特設サイトの閲覧者総数において、目標を達成できた。
- サイトの自走化を目的とした研修会を複数回開催した。



▲混雑等情報サイト上で表示される告知



◀混雑回避を促すマンガ
～白川郷マンガガイド～
(混雑等情報サイトに掲載)



▲混雑等情報サイトの特集記事

令和7年度事業を踏まえた継続課題

サイトの認知度向上

- 令和7年度は補助事業④で行った広告運用 (Google Display Network) のおかげもあり、アクセス数を増加させることができた。引き続きサイトの認知度向上に向けた取組みを推進する必要がある。

令和8年度以降の方針

特設サイトの改善

- 引き続き利用者や関係者の声を聞きながらサイトの改善を図り、より良いサイトとしていくことで、アクセス数の増加を目指す。

5-③. 主な取組（詳細）

受入環境の整備・増強

補助事業④	海外OTA・訪日メディアを通じたマナー等情報発信業務		
事業目的	訪日外国人旅行者に対し、白川村独自のマナー定着を目指す		
実施主体	岐阜県白川村	実施期間	令和7年8月～令和8年1月
<p>【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者のマナー向上のためにレスポンスブル・ツーリズムを推進しているが、十分に浸透していない。 火気厳禁区域での喫煙、ゴミのポイ捨ては、火災による集落の焼失や環境汚染のリスクを高める。 住宅や田畑への侵入、違反駐車は、住民のプライバシーや生活を侵害してしまう。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内閣府の政策の一環となるクールジャパンで評価のあった「LIVE JAPAN」を活用し、信頼性の高い情報を訪日外国人に届ける。 「白川郷レスポンスブル・ツーリズムサイト」への誘導を増やすことにより、観光客のマナー向上を促し、地域との摩擦を軽減する。 オーバーツーリズム対策への貢献として、マナー啓発を通じて、観光客の行動変容を促し、地域への負荷軽減を図る。 <p>【推進ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> レスポンスブル・ツーリズムの重要性を分かりやすく伝える記事を作成する。 多くの訪日を予定している訪日外国人旅行者に、正確な情報を発信する。 SNSやインフルエンサーを活用し、情報を拡散する。 サイトへのアクセス数や記事の閲覧数を分析し、情報発信の効果を測定する。海外OTAを含む300万以上のサイトに広告配信できる「Google Display Network（GDN）」を活用。白川郷への訪問者が多い6か国を対象に、各国の言語でマナー啓発バナーを掲出し、ターゲット層へ直接かつ効果的に情報を届ける。 			

5-③. 成果及び今後に向けて

補助事業④

海外OTA・訪日メディアを通じたマナー等情報発信業務

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 特設サイトの閲覧者総数

令和7年度に掲げた目標値

- 550,000件
※令和6年度当初 約9,000件 → 令和6年度事業完了時 約90,000件

事業の成果/目標の検証結果

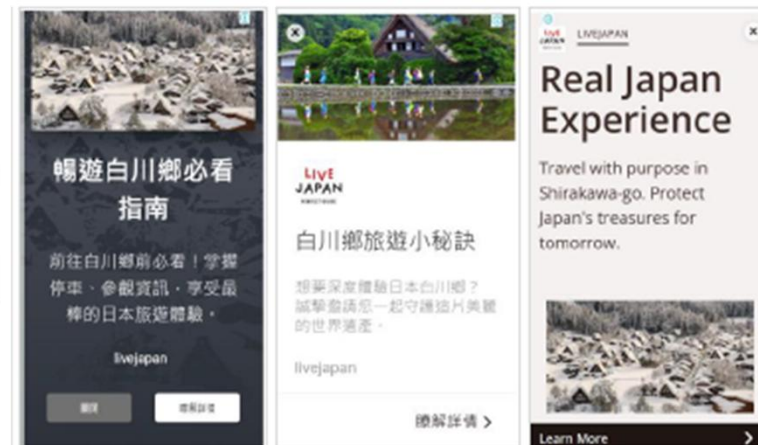
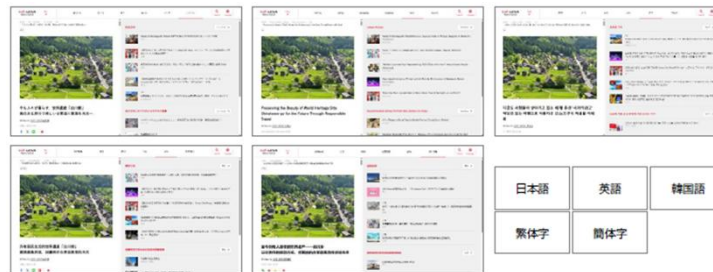
- 610,604件 ※ 令和8年1月20日時点
- (日本語：74,755件、英語：457,469件、簡体字：6,295件、繁体字：69,687件、フランス語：2,398件)

成果の詳細

- レスポンスブル・ツーリズムの重要性を分かりやすく伝える記事を1本作成できた。
- 多くの訪日を予定している訪日外国人旅行者に正確な情報を発信し、上方修正したKPIを達成した。
- 「白川郷レスポンスブル・ツーリズムサイト」への誘導を増やし、観光客のマナー向上を促すことができた。
- 地域独自の観光マナー定着に努めることができた。

▶作成した記事

訪日外国人旅行者向け観光情報サービス「LIVE JAPAN」ウェブサイト・アプリより発信



令和7年度事業を踏まえた継続課題

情報発信の継続

- 令和7年度実施した村民アンケートにおいて、「観光客のマナー違反により迷惑している」と回答した方の割合は92%となり、依然として訪日外国人旅行者のマナー向上を求める住民の声は大きい。情報発信を継続する必要がある。

令和8年度以降の方針

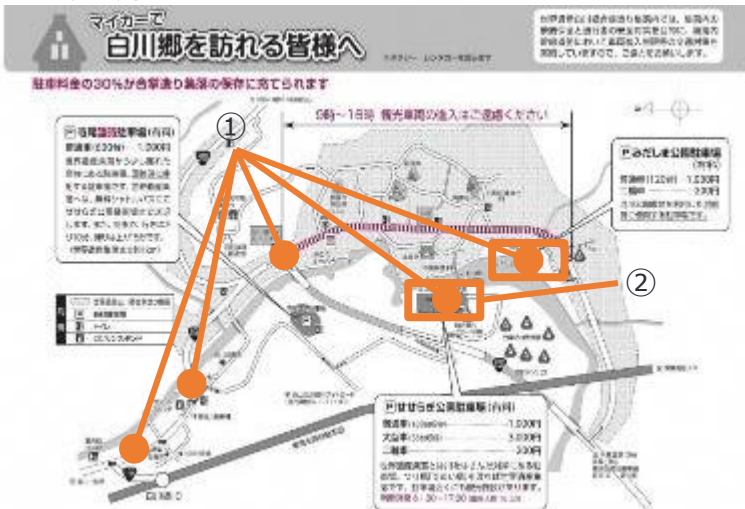
マナー定着

- マナー向上に向けた情報発信は継続することが何より大切であり、今後も同様の事業を、より効果的に行えるよう検討し、実行していく。
- マナー啓発を目的とした動画を作成するなど、より効果的な情報発信の手法を検討し、令和8年度以降も継続して実施する。

4. 対策の概要

- 山間地かつ公共交通機関が発達していないことから道路の渋滞が起きやすく、観光スポットが集中していることからエリアに人・車が集中しやすい構造となっている
- 世界遺産であることから、地域における集落の保全活動が厳格、新たに恒久的な構造物を設置することが困難等の対策に制限がある
- そのため、事前の周知による来訪者の行動変容と既存設備の更新による受入環境整備を行う。
- 大きくは以下の3点である
 - 交通対策：混雑情報をリアルタイムに発信するウェブサイトの開設とマルチ決済に対応した全自動料金精算機の導入
 - マナー対策：広告やメディアへの情報発信を通じた観光客への啓発
 - イベント対策：白川郷ライトアップイベントの混雑対策、ルール違反对策

エリアマップ



全域：③,④,⑤

観光客の分散・平準化

取組み

① 駐車場及び動線となる主要交差点等5か所の混雑情報をリアルタイムで発信するウェブサイトの開設

内容

- 繁忙期に観光車両の収容台数を超え、駐車場待ちの車で渋滞する
- 「混雑状況」を事前に知らせることで、ずらし観光などの行動変容を促し、現地に来てしまったからでは手遅れとなる渋滞問題の緩和を図る

受入環境の整備・増強

取組み

② 指定駐車場にマルチ決済に対応した全自動料金精算機を導入

内容

- 来訪者の約半数を占める訪日外国人旅行者の中に、現金を使用する文化がない、もしくは見慣れない硬貨での支払い等により、駐車場出口で立ち往生してしまい、新たな車が入場できない事象が発生している
- 駐車場の退出を円滑にすることを通じて駐車場内における混雑解消を図るとともに、駐車場利用待ちの車両による道路の交通渋滞を緩和する

マナー啓発

取組み

③ 白川村のマナーを知らない観光客への啓発（レスポンスブル・ツーリズムサイトの海外発信強化、白川郷ライトアップの申込ルール周知、メディアリリース）

内容

- 路上喫煙・タバコのポイ捨てなど集落の存続が危ぶまれる行動（茅葺屋根、木造建築のため火元にはより注意が必要）や住宅敷地等への侵入など住民との摩擦が発生している
- 上記はマナー自体を認知していない、もしくは理解できないことが理由であると考えられるため、分かりやすい内容に変更する

調査・分析

取組み

④ モバイル空間統計のデータを活用した統計データ分析ツールの開発

内容

- 白川村への来訪者は、観光客の多様化（国・地域）で対策ターゲットの絞り込みが難しい
- 来訪者データ等をストックしているが、分析までは行えていないため、RAWデータを分析できるツールを作成し、施策検討の材料とする

取組み

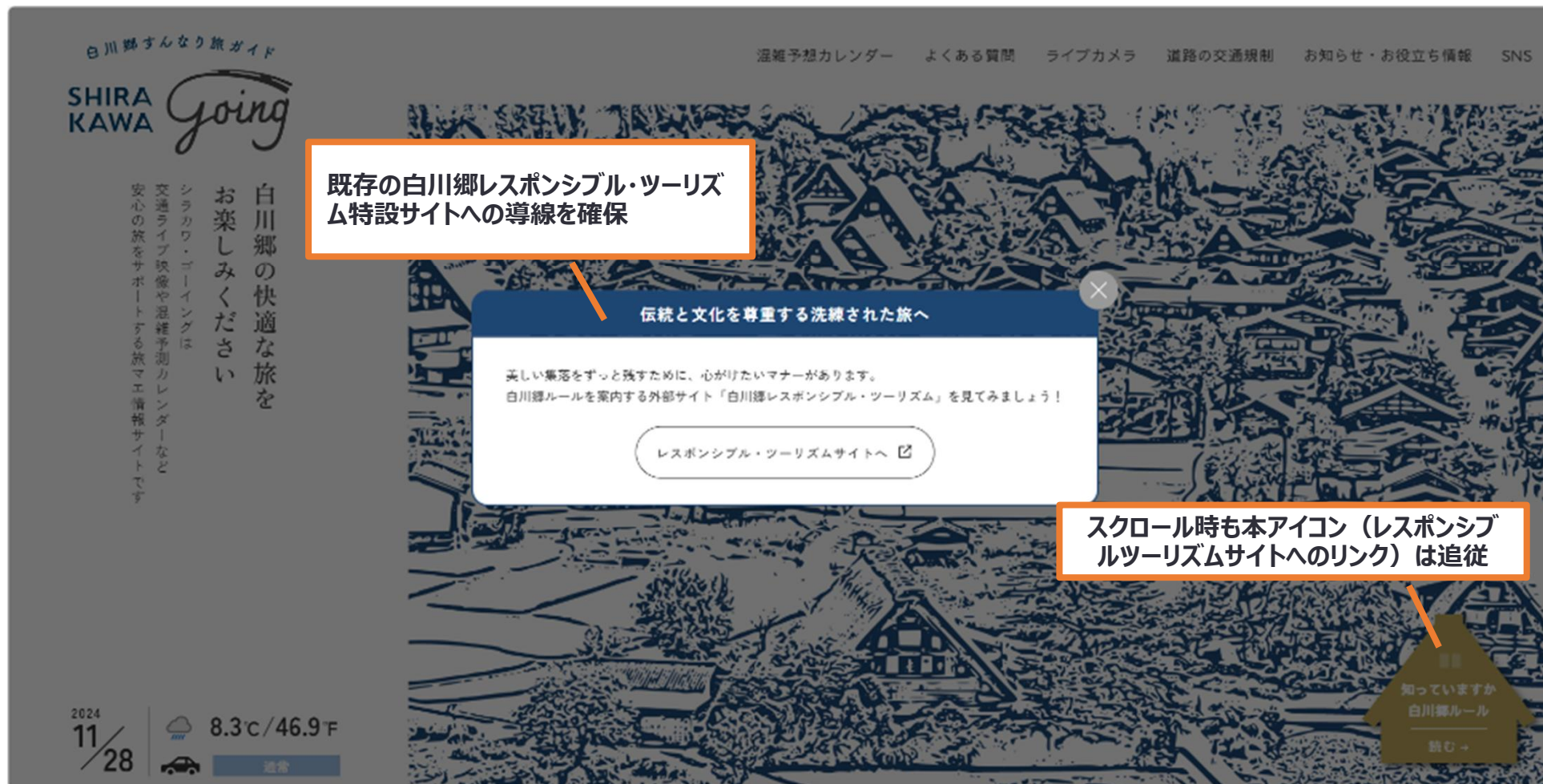
⑤ 事業間調整、コーディネート業務

内容

- オーバーツーリズム対策に係る人材の量及び質が不足している
- 各事業の連携を図るとともにOT対策の体制をえ持続的な取組みを狙う

事業内容

追従ボタンによる白川郷レスポンシブル・ツーリズム特設サイトへの誘導



既存の白川郷レスポンシブル・ツーリズム特設サイトへの導線を確認

スクロール時も本アイコン（レスポンシブルツーリズムサイトへのリンク）は追従

事業内容

混雑状況の写真の公開



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。

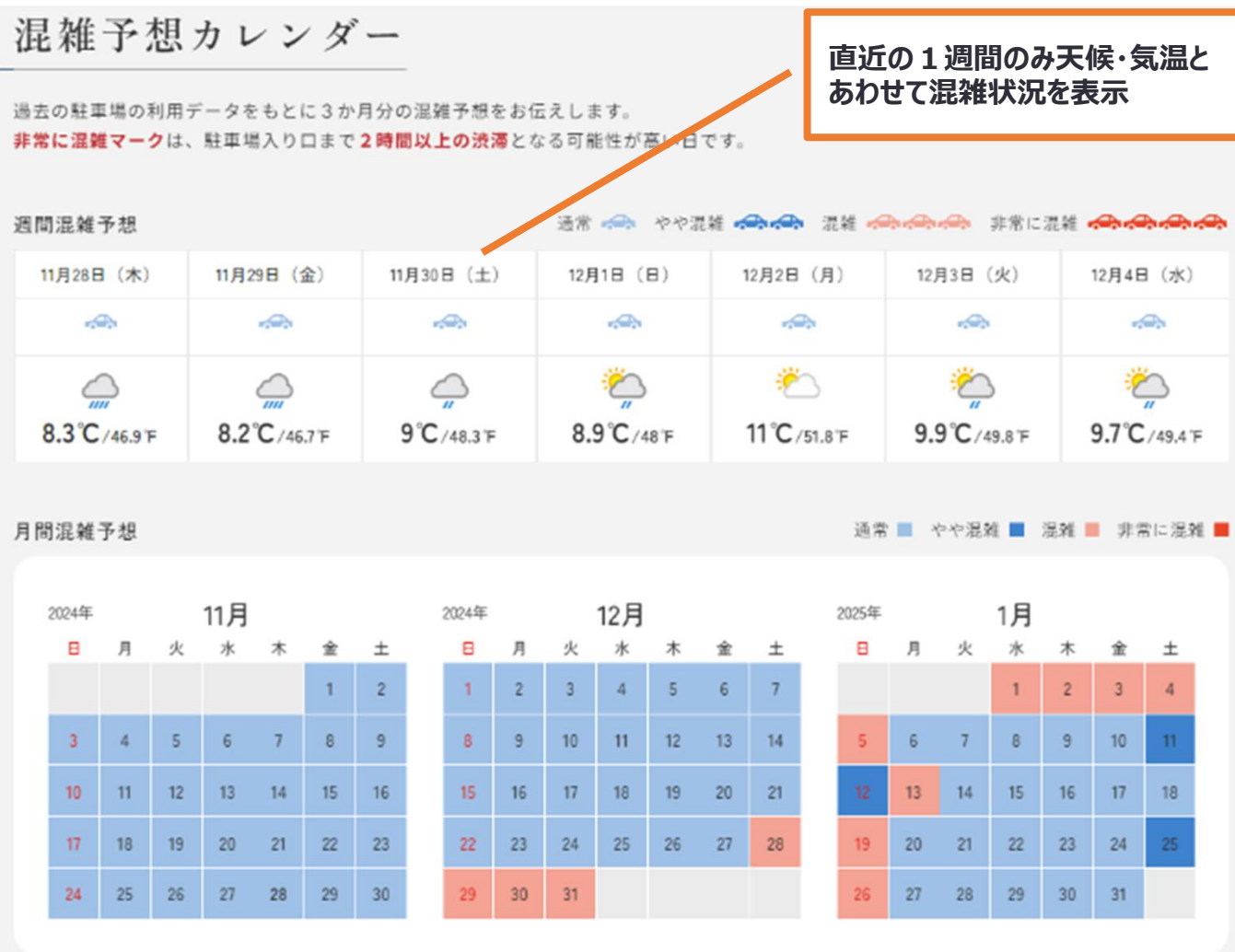


駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



事業内容

混雑予想カレンダー（週間、3か月）



直近の1週間のみ天候・気温とあわせて混雑状況を表示

事業内容

交通ライブカメラ



① せせらぎ公園駐車場

映像を更新

指定駐車場

※混雑時は次の駐車場をご案内します。



② みだしま公園駐車場

映像を更新

※指定駐車場が満車時にご案内します。



③ 萩町交差点

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで1.0km

※入口ゲートからの距離です。



Engage マップで位置を確認



④ デイリー交差点

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで1.6km

※入口ゲートからの距離です。



⑤ 国道156号

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで2.7km

※入口ゲートからの距離です。

5ヶ所のライブ映像を配信

事業内容

各道路の交通規制状況

各道路の交通規制状況

白川村内の雨量規制及び冬期閉鎖のある道路の規制状況をお知らせします。

<p>国道360号</p>	<p>県道451号 (白山公園線)</p>	<p>白山白川郷 ホワイトロード</p>
<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>
<p>2024.11.6から冬季閉鎖中</p>	<p>2024.11.11から冬季閉鎖中</p>	<p>2024.11.11から冬季閉鎖中</p>

こちらから詳しい道路規制状況を確認できます

道路規制情報（岐阜県） 🔗

白山白川郷ホワイトロード 🔗

5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 白川郷ICから本線への渋滞発生減少

事業の成果／目標の検証結果

- 白川郷ICから本線への渋滞発生減少
 - 白川郷ICから本線への渋滞発生日：2日間→0日間
 - ※村営せせらぎ駐車場から約5.3kmの地点
 - ※令和7年2月14日現在

成果詳細

■ 渋滞発生について

- 白川郷ICから本線への渋滞発生日2日間→0日間 ※村営せせらぎ駐車場から約5.3kmの地点

■ 本サイトについて

- 11/28に日本語版、12/20に英語版、中国語版（簡体字及び繁体字）、フランス語版を公開
- 各サイトのPV数は右表のとおり
- サイト分析によるとPCからの閲覧率が高く、個人観光客ではなくメディアおよび観光業界、訪日客関連のマーケティングや研究機関などの閲覧が推測される

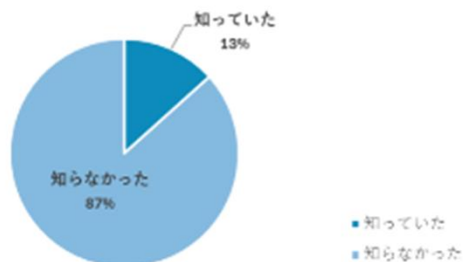
■ アンケート調査結果（N=412 対面188・Web224）

- 白川郷に来るときに本サイトを参考にしたいと回答した人は全体の92%と関心が高く、混雑予測が「非常に混雑」であった場合に、回答者の9割弱（88%）が来訪する日にちや時間をずらすなど、混雑を避けて訪問する意向を示した。本サイトが、白川郷における観光客の集中の緩和に貢献することが期待される
- 一方で、本サイトの認知度は13%に留まり、さらなる周知が必要と思われる

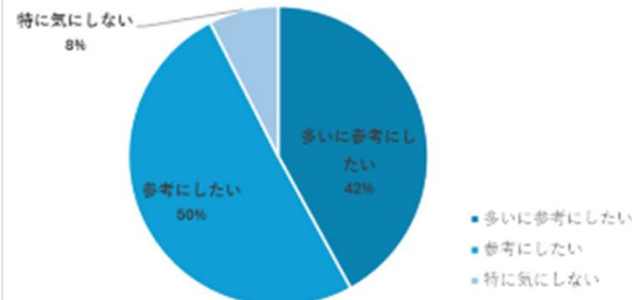
● 各サイトのPV数（2/14時点）

言語	PV数
日本語版	126,045
英語版	3,616
中国語版（簡体字）	4,936
中国語版（繁体字）	1,446
フランス語版	736

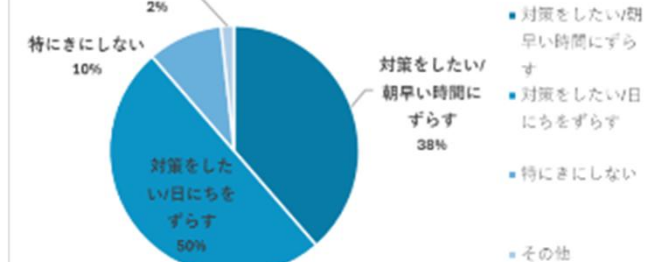
混雑予測カレンダーが見れる Web サイト「Shirakawa-Going すんなり旅ガイド」をご存知でしたか？



白川郷に来る時に、本サイトを参考にしたいですか？



混雑予測カレンダーが「非常に混雑」だったら、どのようにしますか？



5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度 of 取組みから見えてきた課題

1 訪日外国人旅行者の行動変容

- 訪日客は出発前に行程を固めているため、日本に来てからの行動を変えづらい
- 本事業で制作した情報サイト「シラカワ・ゴーイング」は中国本土のアクセスに課題があることが判明した

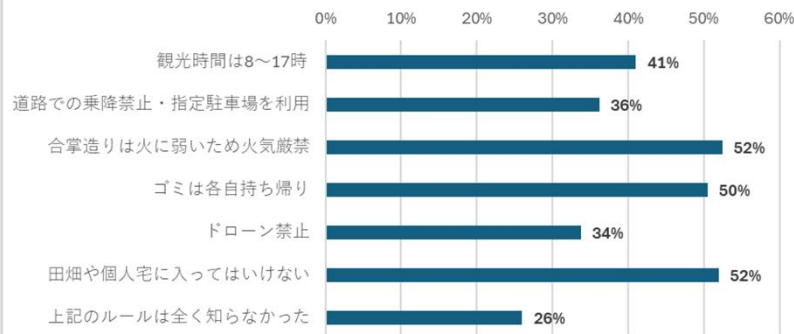
2 重要情報の掲示

- 現在の設計では重要情報はサイトを開いた際のポップアップのみで、かつデザインの関係で1項目の掲載となってしまう、複数掲示が難しいことが判明した

3 交通以外のマナー啓発

- 白川郷では世界遺産集落と村民の暮らしを守るために独自の「白川郷ルール」を設けているが、今回の調査では訪問前に何らかのルールを認知していたのは約半数にとどまり、多くの旅行者が現地で初めて知るという課題が浮き彫りになった

Q4 「白川郷ルール」の認知度（複数回答可）



令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 「白川郷レスポンスブル・ツーリズム」の発信強化

- 混雑情報の配信サイトからレスポンスブル・ツーリズムサイトへの連携を強化する
- 特に訪日外国人旅行者に対する周知活動の継続・強化を行うことで更なるマナー向上を目指す

2 駐車場の予約システムとダイナミックプライシングの導入検討

- 一般的にオーバーツーリズム対策で有効な手段は、「分散、規制、課金」の3つと言われており、村営駐車場の予約システムとダイナミックプライシングの導入を検討することで、個人及び団体旅行者の「総量規制」の検討を実施する
- 令和6年度に実施した駐車場精算機の改修を活用し、ダイナミックプライシングの導入検討を実施する
- ただし、過度な規制をかけると観光客の満足度を下げ、観光客の減少を招く恐れがあるため、住民や観光客の声を聞きながら慎重に対応していく

3 旅行前段階からの情報発信サイトの機能強化

- 今後も残る課題に取り組み、「シラカワ・ゴーイング」を通じて混雑回避に役立つリアルタイム情報の充実、白川郷ルールの周知強化、レスポンスブル・ツーリズムのさらなる浸透を進め、観光と地域住民の暮らしの調和を図る
- サイト閲覧者が重要情報を見逃さないために、重要事項を複数掲示できる設計に変更する

現状について

- 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。